

山 ゆ り

11-12 月号 No358 2014 年 11 月 1 日

初号発行:1972 年 12 月 25 日

山ゆりの会(尾瀬の自然を守る山ゆりの会)

年会費 1000 円 (郵便口座 00230-2-42601)

〒246-0025 横浜市瀬谷区阿久和西 2-25-16 草野正昭

Tel/Fax:045-364-6515 メール:VZM03024@nifty.com

URL : <http://homepage3.nifty.com/yamayuli/>



石老山

参加者：曾根 松田 和田 豊留 大内
長谷川 加藤 稲本 草野 (9名)

●山ゆりの山行として、石老山には
1973 年 12 月に 32 名、1977 年 11 月に
20 名、1979 年(参加人数不明)、1989
年 11 月 18 名と 4 回行っている。今回は
25 年ぶり 5 回目である。参加者はみんな
若かった。今回 NHK 朝ドラ「花子とア
ン」に登場する「蓮子」こと柳原白蓮

(本名宮崎燐子)の墓が石老山登山口の
顯鏡寺にあることがわかり、ここを訪ね
白蓮の足跡に触れることとなった。

九州筑豊の炭鉱王伊藤伝右衛門と政略
結婚させられた白蓮はその後東京帝大の
学生であった宮崎龍介と出会い、1923
年関東大震災の年に結婚する。宮崎龍介
の父は、中国革命の父といわれる孫文の
盟友宮崎滔天、母は熊本県の豪農民権家
で代議士の前田安山子の三女穂子である。
長女の卓子は夏目漱石「草枕」のヒロイン
那美のモデルといわれ、結婚したが自分
の意見がいれられないと離婚、義弟にあ
たる滔天とともに孫文の支援に奔走した。

NHK ドラマでは、龍介の母親が掃除な
どしたことのない伯爵令嬢の白蓮を躰け
る場面があるが、宮崎家には、明治とい
う時代に合って、駆け落ち同然の白蓮を
受け入れる素地があったということだ。

宮崎家の墓の墓石を見ると、長男の香
織(ドラマでは順平)の命日が 1945 年
8 月 11 日と刻まれている。あと 4 日後
が 8 月 15 日の終戦というのに、1 週間
早く降伏していれば、このような悲劇も



9/21 石老山

おこらず、原爆投下という最大の悲劇も、ソ連軍参戦の悲劇もなかった。

登山口に向かう道沿いにある大神田家という大きな屋敷の門扉に白蓮関係の新聞報道の切り抜きが貼ってあった。毎日新聞の切り抜きによれば、地元寸沢^{すあらし}嵐^{つねひろ}在住の竹内庸浩(86)さんの父直光さんが龍介・白蓮夫妻と親交があり、直光さん自身も結婚の際に白蓮からお祝いの短歌の色紙を送られている。その縁でこの地に墓が設けられた。

晴天にしては残暑もさほどのことはなく、快適な一日であった。(K.M)

●久しぶりの山行なのに、いきなり小田急線線路事故で、出鼻をくじかれWさん、Sさん、私と三人、集合時間に遅れる事30分。相模湖駅に到着した時山ゆり御一行様はすでに出発した後。3つのタクシー会社に電話するが全部出払ってないとのつれない返事。

さてと困っていたところSさん走り廻って臨時バスが運行する事聞きつけ皆の後を追う。顕鏡寺までは車道も上がってきており境内には朝の連続ドラマの花子とアンの蓮子のモデルとされている歌人柳原白蓮と夫宮崎龍介のお墓がひっそりとあった。丁度お彼岸で地元の人がお墓詣りに来ていて二人にまつわる話を色々聞くことができた。

山頂には境内の前にある岩窟の前から山道に入り力試し岩など巨岩帯を抜けしばらく登山道を行くと融合見晴らし台。眼下には相模湖が。しばらく登って行くと石老山山頂。山頂はかなり広く沢山の親子ずれがお弁当を終えた所でした。親子ずれのグループはともに完全装備で山好き親子の山のグループなのか？下山は大明神展望台を経由していくつかのアップダウンを繰り返しプレジャーフォレス

ト前に。相模湖駅行きのバスはなんと40分後、ここで歩く人、待つ人に分かれて解散。毎度の事ながら最後のおまけもなかなかのものでございました。ごちさう山でした。(豊留幸代)

●台風の影響も無くなり最高の天気になりました。小田急線に乗る前から遅れが言われていましたが、町田までは問題無いと安易に電車に乗ってしまいました。ところが相模大野の手前で動かなくなり、足止めを食らってしまう。当初は信号のトラブルとの説明が線路の破損に変わる。曾根さんから連絡が入り町田で待っていてくれるとのこと、たとえ先まで行けなくても留さんと3人で高尾でも行けるねなんてことを話しながら相模湖へ着いたのはいいがバスもタクシーも無く、困っていると旅慣れている曾根さんが停まっているバスまで行き人数が集まり次第発車すると聞きつけてくれて事無きを得ました。

先行組とは顕鏡寺でようやく追い付きました。白蓮さんのお墓は顕鏡寺の裏側にありました。お墓はなかなかの物で戦後の生活は良かったのでしょうか。

お寺を後に登り初めて急斜面に大量の汗をかきましたが何だか楽しくて頂上に着くと小さい子供と親子組集団に出会いました。彼らは月に1度の山行を楽しんでいるそうで上から下の登山靴までブランドで固めて皆それらしく様になっていました。未就学の小さな子が多いのに、泣き言を言う子も無く楽しんでいる感が有りました。

頂上はさほど広いとは言えませんが広めのベンチが楽しいお昼をさせてくれました。700Mほどの山ですが傾斜がきついで下りもそれなりに注意のいる下山となりました。登山口付近には石老山

に見られる花々の看板が有りましたが季節の良い時にまた来て見たいところです。それほど長いルートでも無かったのに盛りだくさんだったので行って来た一との思いで楽しかったです。またよろしくお願いします。（和田悦子）

●高校の山岳スキー部で一緒だった、同じクラスのT君と卒業以来ほぼ半世紀ぶりに昨夏、蓼科山に登った時に、どちらからともなく、「今度は菅平の根子岳と四阿山（あずまやさん）に行こうよ」、と言うことに。

今回それが、意外に早く実現。5月の末に霧が峰で警察犬の競技会があるので、長野に来る。その時に何処かの山に行こうとの連絡が。

車で6時半に出発。登山口に8時に到着。晴れてはいるが、前日から気温が高く、大気が不安定と。北の方の黒い雲を心配しながらスタート。白樺の多い牧草地を抜け、計画より早く100分で根子岳頂上に。逆周りで四阿山を経由して来た夫婦が朝食をしていた。気温12度。黄砂のためか、周囲の景色は霞んでいる。これから行く四阿山が見えていて、遠くからも雪がかなり積もっているのが判る。小休止の後、直ぐ出発。急な下り、火口壁のやせ尾根、所々に雪と岩。笹原の下りが続く。案の定、遠くで雷鳴が聞こえ出した。雷鳴がだんだん近付いて来ている。雷を心配していたT君も、「ここまで下ったら、もう戻りたくない」と。幸い雨は降っていない。最悪は笹原の中に横になろうと決めて、ひたすら歩く。コルを過ぎると、樹林帯の中の積雪を踏んでの急な上り。息が切れる。「少し休もうよ」と私。前に行くT君は聞こえないのか？止まらない。間が空いてきた。何組かのパーティとすれ違う。大きな雷鳴

が頭上で。樹林で雪の上。どうしよう？雲の流れが速いので、黒雲の通過を願いつつ、上り続ける。休憩無しだった分、予定より10分短縮で四阿山に。2354M。地図に有る三角点は見当たらない。薄日が射しているが、相変わらず雷鳴は続いていて、近くに稲妻の走るのが何度も見える。目の前の浅間山もぼんやりだ。トタン屋根の社が近くに有るが、急いで昼食を済ませた。

1時間ほど下った頃、雷鳴が聞こえなくなり、やっと安心した。下り路では、ショウジョウバカマ、イワカガミが何度か見られた。小さな花びらの満開前の桜（富士桜？）が多くて楽しませてくれた。出発から6時間15分。ゴールでの300円の牛乳が美味でした。

家に戻ると、次は、窓から遠くに見える常念岳へ10月頃に、と彼の口から。（松田 雄二）

●第40回道路住民運動全国交流集会

道路住民運動全国連絡会の全国交流集会在10月11日、12日の二日間、横浜市栄区にある県立「あーすぷらざ」で開催され、46団体211人が参加、私も中部横断道について報告を兼ね出席した。

第一日目は、①岡山から美作岡山道路、②九州豊前市から東九州自動車道、③川崎国道1号線13年の闘い、④川崎「大気汚染公害」、⑤中部横断自動車道、⑥横浜環状南線など各地6団体からの報告があった。

二日目は、道路全国連・橋本事務局長の基調報告で始まった。「正義を掲げて闘う」「力のない正義では勝てない」「曇りのない眼で未来を見る（もののけ姫）」などの言葉が印象に残った。

「これからの日本」と題した中央大学の米田貢教授の記念講演は、経済学者か

らみた、安倍政権の経済政策・アベノミクスがいかに欺瞞の満ちたものであるかを具体的なデータで示した。

どうして道路運動は勝てないのか、に関心が集中しが、今年になって大飯原発福井地裁判決、泉南アスベスト勝訴裁判、福島原発自死事件勝訴判決など、実質勝訴の判決は、住民訴訟に明るい展望を与える。

全国で繰り広げられてきた道路住民運動の成果は必ずしも納得のいくものばかりではなく、むしろ厳しい闘いの連続である。それでも、全国各地からの苦労話や経験談、「60、70 はまだ若手」などの多くの声に鼓舞され、勇気づけられた集会であった。（草野）

■ 11月山行 11月16日（日曜日）八王子南部丘陵ウォーキング ㊦

多摩丘陵の北西エリア、八王子南部の絹の道一柚木緑地などの里歩きです。

- ・集合：JR横浜線 八王子みなみの 朝8時30分
- ・持ち物；昼食、雨具など

■ 12月山行 12月14日（日曜日）箱根旧街道から鷹ノ巣山(834) ★

今年度最後の山行は昨年箱根です。下山後は宮ノ下温泉共同湯「太閤の湯」へ

- ・集合：箱根湯元駅 朝8:55 9:15の畑宿行バスに乗車
- ・持ち物：昼食、雨具、着替え 温泉グッズ一式 など

■ 例会の予定

- ・11月18日(水)：11月例会
- ・12月16日(火)：12月例会

あとがき ・10月山行赤城山バスハイクに19名が参加、人数さえ集まれば安く遠くの山へ、1台のバスにまとまって行くのもいいものだ。・東電福島原発事故および従軍慰安婦の報道に関して、朝日新聞パッシングが続いている。福島原発吉田氏調書のスクープ記事に誤報があったとしても福島原発のあの過酷事故の事実を否定することまではできないし、ましては特定記者への脅迫・迫害まがいのことが続いているのはとんでもないことだ。・自ら濟州島の女性を強制連行したとする故吉田清治氏の虚偽証言を報道してきたことについては、慰安婦問題自体が無かったごとくの攻撃的報道も目立つ。日本軍の関与、強制性を認めた1993年の「河野官房長官談話」はいささかも変わらない。もともと「河野談話」は吉田清治氏証言については当初からその信ぴょう性に疑いがあり、採用されて

いない。このことは最近河野談話を検証した安倍政権は先刻承知のはずだし、政府は朝日報道の後安倍政権として河野談話の継承を表明している。にもかかわらず、安倍総理やその閣僚からも「国益が損ねられた」「日本の名誉が傷つけられた」などと大合唱、それこそ日本の恥。・御嶽山の火山事故は、防げない自然災害だったのだろうか、イタリアでは8つの活火山に120名以上の研究者が国の予算で関わっているという。火山大国の日本はその十分の一にも満たないという。経済の成長にも、国際競争力にも寄与しない部門に金をかけないのが今の日本の姿である。とするとこれは人災か――。・「曇りないまなこで未来を見定める(もののけ姫)」なんという含蓄のある言葉であろうか。・台風が18号、19号と続いた。去年の今頃は26号、27号と続いたから今年は10も少ない。いよいよ秋本番到来。

- ・手作りのおかず見せ合ふ秋の山 【K】